

ふるさと再発見

まだれいな銘キリシタン墓碑

「まだれいな銘キリシタン墓碑」は山寺町の共同墓地内にあり「まだれいなな墓」として親しまれています。

「まだれいな」とは、女性信者のクリスチャンネーム「マダレイナ」のこと、この墓碑の正面左下にひらがなで彫られています。

キリシタン墓碑はかまぼこ型の、平地に伏せる型の伏碑が多いのですが、「まだれいなな墓」は、普通の墓石のように立ててある自然石の立碑です。この形式は珍しく、昭和2年に県の史跡として指定されました。



島原にキリスト教が伝えられたのは戦国時代の永祿6年（1563年）で当時の大名有馬氏の招きに応じてポルトガル人のアルメイダ神父が布教を始めました。その後、多くの人が入信しましたが、島原の乱や幕府の禁教令による弾圧により信徒はほとんどいなくなり、信仰を守る人はいわゆる「隠れキリシタン」として潜伏しますが、その実態は明らかにされていません。市内には、島原城の本丸に、亀の甲町と南島原市有家町で発見されたかまぼこ型のキリシタン墓碑が1基ずつ移設されており、崇台寺境内にも1基あります。また、城内三丁目にはイエス又会の会章（IHS）入りの石碑も見られ、島原に一時キリスト教が栄えたことを物語っています。

クローズアップ Close Up!

「秋波」

皆さんは毎日どれくらい歩いていますか。

今紹介するのは、楽しみながら健康づくりを行っているグループ「秋波」の皆さんです。

このグループは、平成21年に開催された市保健センター主催のウォーキング教室を受講した人が中心となり結成されました。

現在、メンバーは42人で、毎月1回約1時間かけて市内を歩いているそうです。

グループリーダーのひとり伊達信子さんは「普段、車では見過ごすような場所が、歩いていくとよく分かりますし、歩いても疲れなくなりました。何より



景色や花などを見ながら、仲間の人たちといろいろなお話ができるのが楽しいですね」と話してくれました。

メンバーの中には、活動を続けていくうちに、買い物も歩いて行けるようになったり、通院する回数が減った人もいて、楽しみながらウォーキングが健康づくりに役立つようですよ。

これからの季節、歩くにはちよつといいかもしれません。皆さんも楽しみながら健康づくりを始めてみませんか。
連絡先：伊達信子（☎ 2055）